令和７年度　余市町立黒川小学校　学校だより

黒小だより

令和７年１１月３０日
第８号

【今年度の重点目標】　～豊かに表現し、学びを深める子の育成～

○学ぶ楽しさと成長を実感できる学校　○元気な挨拶と思いやりにあふれる学校　○保護者・地域の信頼で結ばれる学校

見えない未来と新しい授業づくり

校長　半　田　健　一

11月５日に今年の「新語・流行語大賞」の候補30ワードが発表されましたが、聞いたこともない言葉が15ワードもありました。個人的には、SNS等で自分自身のことを発信しようとは少しも思いませんし、閲覧することもほとんどない生活を送っているので、ネットスラングやらアイドル用語やらは未知の世界…「遅れています」。別に遅れていても全然いいのですが、他人に「え？知らないの？」とか言われるのは腹が立つので、いつもこの時期には初耳ワードについて調べています。【ついていけずにへこんでいるあなたにお届けする、超最低限のコンパクト解説！】という私にうってつけのサイトを見つけて読みました。それで、知ったかぶりして使ってみたときにはすでに「遅れている…」ことになっているのですが。

様々な言葉が生まれては消え、これまでにあった言葉が新たな意味を持って使われ…。ものすごいスピードで変化し続ける社会を映し出しているかのようです。

一昔前は、子どもの側から社会にある職業や仕事はよく見え、自分の人生の目標の一つとなることも多かったと思います。そして、そのGOALにたどり着くにはどのレールに乗ればよいかを考え、そのレールに乗るための力をつけることに一生懸命だったのではないでしょうか（子どもも、親も、教員も）。一方現在は、考えもしなかったような職業が新たに生まれ、10～20年の間に今ある職業の半分近くがなくなると言われる時代です。今あるGOALはあるかどうかわからず、変化し続けています。道なき道を進んでいかなくてはなりません。しかし、それはネガティブなことではなく、創造と可能性にあふれた未来と捉えることもでき、そのような社会でGOALを目指すための能力や態度を身につけることが重要です。

社会が変われば、必要とされる力も変わり、授業も変わらなくてはなりません。表面的に見れば一人一台端末を活用した授業風景は劇的な変化ですが、それは本質ではありません。端末は有効ですが、道具の一つです。ですから、私たち教員も試行錯誤を繰り返しています。

一昔前まで、教員は「読み書き計算」など、自分が子どもの頃に習得してきたことを、目の前の子ども達にも同じように習得させることを目指していました。簡単なことではありませんが、自分が実際に習ってきた経験は大きな財産でした。しかし、現在の教員は10数年後の未来にどんな力が必要になるのかを常に見定め、児童の多様性と向き合い、自分自身は経験していないような新しい授業をつくり続けています。これは、本当に大変で、すごいことです。そのため、11月19日には本校の授業を公開し、町内外から教職員百数十名が参加して新しい授業づくりの研修を行いました。成果は子どもに還元されます。

公開した学級の子どもからは、早く下校する学級の子どもの姿をうらやむ声も聞こえてきましたが、「１時間多く勉強できてよかったね！」とお伝えいただければ幸いです…。